

まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月7日(金) 午後2時00分～午後3時30分
場 所	新城多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性11名 女性 3名 合計14名

会 議 の 概 要

1 開会 【総務部長 司会進行】

2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんにちは。こうして出席いただきましてありがとうございます。皆様には、日頃から市政やまちづくりの推進に関しまして、ご支援・ご協力をいただいていることを厚くお礼を申し上げます。

さて、最近では寒い日が続いていますけれど、雪の降る量が少なく、とりわけ芦別は、空知管内でも極めて少ない状態で、過去の記録におきましてもこれだけ少ないことがないというほどです。降雪は8割ぐらいあるようですが、積雪が平年の半分以上となっています。暖冬で寒気が長続きせず雪が解けており、農作業等々これから春に向けて影響がでるのではないかと心配をしているところではありますが、推移を見守りながら必要な対策はしっかりとしていかなければならないと考えております。

また、世界的に、そして国内、道内においても感染が見られる新型コロナウイルスについても、予防対策をしっかりとしていかなければならないと思っています。

そして、不通が続いていましたJRの芦別富良野間が、野花南の架道橋の改修を終えました。当初は2月末までかかるということでありましたが、順調に工事が進み、5日から平常通り運転が再開され、朗報であると感じているところです。

今日は、先ほど総務部長からご案内申し上げたとおり、市が直面する課題として、一つは庁舎の整備の関係があげられます。

詳細については担当からご説明申し上げますけれども、昭和44年の建設から50年が経過しております。老朽化が進んでいるとともに、芦別は地震が少ない土地柄ではありますが耐震性が非常に劣っていて、震度6強で倒壊の恐れがあるという状況であり、将来にわたって市民の皆様が必要とする行政サービスの提供、防災の拠点としての確保をすることが必要で、芦別市をしっかりと自立させなければと考えています。そういった意味で、いろいろ検討した結果、最善策として建替えがベストであると考えております。

もう一つは市立病院の事で、これまでもまちづくり懇談会で議論いただいているところですが、私どもも内部での検討や、経営アドバイザーのご意見をいただいています。また、昨年から一年間をかけ、あり方について検討いただいた有識者会議から、先月の25日に答申を受けました。答申内容については後ほど報告いたしますが、病床数や経営形態、診療の体制のあり方等の観点からいただいております。基本的には、芦別市は空知でも端の方にありますので、市民の皆さんの命や健康を守ることから、今ある医療資源の中で安全・安心な医療の提供をしなければならぬと思っています。そういったことを含めて、基本的には、維持・存続をさせていこうと考えております。

その前提として、昨年9月に厚労省から市立病院が再編・統合の対象として公表されました。これは、全国で424の病院、道内においては54の病院が対象となり、そ

のうちのひとつとして対象となったわけで、中空知では芦別が唯一の対象となりました。診療機会が少ない病院なので、再編・統合を進めなさい、9月までに一定の方向性を示しなさいということでした。だいぶ態度が軟化してきていますが、これを契機にして、答申内容や国の考え方も含みながら、将来の病院をどうするのかについて皆さんから意見をいただきたいと思います。

今日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
 - ・北森カレッジの本市での実習について
 - ・新型コロナウイルスの対策等について

4 意見交換

○市民

説明があったことから離れますが、トヨタの社長が使ったり、オリンピックの橋本大臣が使ったりなど、いろんなところで使われる言葉の前後に疑問を持っています。私も農業委員会の中で指摘したことがあり、農協の地区懇談会でも指摘をして理解をしてもらって直ってきています。

市に置き換えると、広報あしべつで4か所ほどあり、今日の説明の中でも2か所出てきています。1か所は私ももうだと感じていますが、もう1か所、市立病院の資料の中で、安心という言葉があります。広報あしべつの市長の文章の中には、安全・安心と書いてありますが、消防は安心・安全と書いています。また、観光協会も安心・安全と書いてあります。もう一か所は安全・安心となっていました。

これは、芦別市として統一していいのではないかと感じました。食料、車、ほとんどが安全があって安心があると、20年以上前から農協に提言して直してきました。日本を代表する人たちがまだ安心・安全と言っているのはいかなものかと思います。前北海道知事も最初は安心・安全と言っていましたが、最後の方は安全・安心にこだわっていましたし、鈴木知事もそう言っていますので、芦別も統一してほしいと思います。

●市長

言葉の使い方は大事だと思っており、内部においてダブルスタンダードではありませんが誤解を与えていることについては、大変申し訳なく思っています。お話をいただいていることに関しては、安全が先に会って安心があるという繋がりが順当であると感じています。この4月から10か年のまちづくりの指針となる第6次の総合計画がスタートいたします。ここの中においても、だれもが心豊かで安全・安心に暮らせるまちづくりという項目を掲げていますので、こういう趣旨に沿いながら不整合がないよう対応していきたいと思えます。状況によっては違うのかもしれませんが、芦別では安全・安心に暮らせるまちづくりと謳っていますので、基本的には安全・安心としていきたいと考えています。

○市民

庁舎の建替えはわかるのですが、今の庁舎の解体はいくらぐらいかかるのですか。

●危機対策課長

資料の22ページになりますが、概算で1億7千万となっています。

○市民

市立病院の資料に書いてある地方公営企業法全部適用に関して、もう少し詳しく教えて

ほしい。市長から独立した権限を得るとあるが、別の組織を作るということですか。

●病院事務部長

現状は院長がいますが設置者は市長で、人事権とかすべての決定に関しては、市長が権限を持っています。実際問題として市長は多忙であり、病院経営に精通しているわけでもないことから、病院に権限を持った管理者を設置し、市長の代わりとして職員採用からの運営全てにおいて責任を持ってもらうこととして、独立した形をとるものであります。あくまでも設置者は芦別市長ですが、その権限を事業管理者に移行して担っていくものであります。

○市民

独立行政法人とあるが、例えば採算が取れなくなった時に国の再生機構で使っている言葉だと思えます。例えば、民間会社が採算が取れなくなった時などに法人で補っていると思うのだが、地方独立行政法人はどこになるのですか。

●病院事務部長

独立行政法人も民間が主体となるものと公が主体となって担うものがあります。例えば、大学病院は全て独立行政法人であります。市立病院に例えますと、例えば、芦別と赤平と砂川が一つになって独立行政法人を形成するとした場合、それぞれの市から予算から含めて独立した法人を作ることになるというように、その主体が公なのか民間なので変わってきます。ここで言われているのは、芦別、赤平、砂川、滝川が再編統合をして独立行政法人を作るのが良いのではないかという答申を受けたということです。独立した機関でありますので、経営が立ちいかなくなった場合は倒産ということになります。

○市民

11月末ぐらいにインフルエンザの予防接種をしており、3年間ぐらい千円の負担を払っていますが、受けるときに千円でなくてもいいのにと感じていました。1年に1回しか受けないのに安くしなくてもいいのではと感じているのですが、そういう人たちもいると思えます。また、70歳になってから診療負担が3割から2割になりましたけど、これも1割ぐらいの話ですが3割負担でいいのにと感じています。これは、国・市で決めていることで、私たちからしたら安い方が良いに決まっていますが、これを集めて、今後やろうとしている妊産婦や乳幼児だとかの方に使えないものなのかと思っています。妊婦加算についてだめになりましたけれど、私は、妊婦加算はつけておいて、負担額を3割なのを2割にするとかの方向にすれば良かったのにと感じていました。そんなに裕福でなくても児童福祉とかに向けてもいいと思っていて、そういう道があるものかと。高齢者の負担が幼児等に向けられていると感じるシステムがあれば、子育て世代等の負担を少なくする方向に振っていけると思えます。

●病院事務部長

当院に産科はありませんが、妊婦加算については、国の診療報酬で決められていることなので、各病院は従うこととなります。インフルエンザの料金に関しては、民間を含めて独自に決めてよいことになっていまして、市立病院では公立病院であることから、近隣の料金を参考にして、負担にならないように設定しています。

○市民

高齢者全員を3割負担にするということではなく、協力できる人が自発的にできるような体制を役所が整えることができないかという提案です。

●総務部長

提案という形でいただきました。所得の水準等で負担の割合を変えているものもありますが、それを制度から外れた形で独自に実施するのは難しいと考えています。

○市民

芦別温泉は振興公社が指定管理者だったが、今はどこがやっているのか。また、指定管理者とはどんなものなのか改めて教えてほしい。

●総務部長

現在は、ホテル&リゾートが指定管理者となっています。指定管理者は、施設を管理するにあたって市が直営で行うか、指定管理者にお願いするかどちらかの方法を選ぶという法律の改正によってできたものです。それまでは、市が直接やるのではなく、振興公社に業務委託をしていました。また、指定管理者には、スターライトホテルがそうなのですが、収入を指定管理者が受けてその範囲内で営業をするものと、委託料という形で指定管理者に市が負担する代わり収入は市に渡すという2つの方法があります。スターライトホテルは、利用料金制というやり方をしていますが、利用料金にも決めがあり、市で利用料に上限を決めてその範囲内で料金を設定して運営していただくこととしています。

コミュニティーセンターも指定管理者となっていますが、利用組合に委託料を払う形をとっています。

○市民

市は、これから相当節約していかなければ、庁舎の借金を払っていけないと思います。例えば、新城のセンターの屋根の塗装に600万円の見積りとなったが、半分以上が足場ということだった。業者を育てるということは必要で大事だと思うけれど、電気工事で使う高所作業車だと簡単にでき、聞いたら300万ぐらいでできるということでした。指定業者があるということはわかるが、もう少し工夫する必要があるのではないのでしょうか。

●総務部長

市の公共事業について、進め方によっては費用を抑えることができるのではというお話でしたが、全てに仮設の足場を組むよりは高所作業車を使用する方が安いのかもかもしれませんが、市内の業者の受注してもらわなければならないこともあって、なかなかそういう方法が取れないことも現実であります。ただ、これ以外について2つの工事を合わせて行うなどして経費を抑える工夫を図っていかなければならないと思っています。

○市民

市内の業者を守るというのはわかるのですが、どうすれば市の財源を抑えられるか考えないと、それが全部つけとなって市民に来ることを考えて進めてほしい。

○市民

市に要望を出せるのは、町内会連合会筋と交通不安全・生活館筋の2つしかない。市も財源がないのはわかりますが、何回も同じ要望をするのは申し訳ないけれど、やってほしいという気持ちがある。今年は雪が少ないが、雪が多いときにセンターのガラスが割れたことがありました。また、今年要望しましたが、町内会長としてもう一度要望していただきたいことがあります。新城の郵便局の間に防犯カメラを付けてほしいと依頼しました。前会長が目撃者のいない状況で交通事故を起こしたものですから、ぜひお願いしたいと思っています。交番が統合されると誰もいなくなり、周りも高齢者ばかりになるのでお願いしたいと思います。

●副市長

直接は受けていませんが、各地域においてもそういう声があると認識しています。防犯カメラは、事件、事故だけではなく、行方不明者、児童生徒、高齢者の徘徊等で、捜索するときに有効だと考えています。そういうことで、役割を果たすポイントがどこなのか、新城でいえば会長から話がありました場所になるかと思いますが、全市的にどのような場所がいいのか。プライバシーにも配慮しながら、どういう役割を果たす防犯カメラとするのか整理をしており、できれば年次的に計画的に必要なところから整備していきたいと思っています。ただ、市役所が整備する物となると、プライバシーへの配慮や風雪への耐

性、夜間への対応等、多くの条件が付くので1台当たり40から50万円と高額になります。このことに対しても、経費を抑えた中で要望に応えたいと思っていますので、もう少しお時間をいただきたいと思います。市役所の仕事は高コストになってしまっていますが、最小の経費で求める地域課題を解決するように、コスト意識を持って頑張りますので、ご理解・ご協力をお願いしたいと思います。

○荻原市長あいさつ

最後まで熱心にお聴き取りいただき、貴重なご意見をいただきありがとうございました。庁舎につきまして、ご指摘等いただきましたが、なぜこの議論を起こさせていただいたかという、一つは財政の問題があります。国が東日本大震災を受け、役場が機能しないことは問題であり、国税を投入しながら支えようと制度を推進していますが、一定の期限が設けられていて、平成29年から令和2年の4年間となっています。これが、役場機能緊急保全事業で、元利償還金を負担するというものになっており、全体事業の約2割が地方交付税に算入され、実質負担が8割になるということになります。

素案では全体事業の35億、償還額となると約37億となり、三年据え置き25年間で償還していくことから、毎年1億強の償還が発生します。令和5年度に完成した場合は、三年据え置きになった後に償還が始まります。財源手当てを考える時の前段として、国が制度を令和2年度までとしていることに対して、盛んに総務省に要望をしまいいりました。担当局長や課長等とも話をさせていただいたところですが、どうも延長というのは考えられない現状であります。芦別市だけではなく、状態が似ている自治体もあり、全国市長会を含めて全体で、延長してほしいと要請をしていますが、現実的になかなか厳しい状況にあります。したがって、そのことに楽観視をしているわけにはいかず、制度があるにもかかわらず手を付けないのは、行政の不作为になりますので、私たちの立場からすると放置をするわけにはいきません。この負担がなければ100パーセント市の負担となりますので、そのことも考えて作業を進めていかなければならないと考えています。

償還を考えた時に、財政調整基金といういわゆる手持ちの預金になりますが、これの見極め、それからふるさと納税、日本ソーイング、銀座山形屋の紳士服オーダーが4月から5月までで5億円ぐらいあり、そういったことも含めて基盤づくりに充てていくことを考えていかなければなりません。また、カナディアンワールドの償還が令和8年で終わります。1億7千万を皆さんからご負担いただきながら償還しておりますが、20年かけた償還が終わります。庁舎の事だけを申し上げますと、令和5年に完成したとして、三年据え置いて令和8年から償還が発生することになり、ある面では1億7千万が1億2千万ぐらいになると、単純な話ではないことは承知しますが、全体の財政を見極めながら進めていきたいと思っています。機能のことをもう少しお伝えすると、決して華美なものにしようとは思っていません。簡素で機能的で、コンパクトなものと考えており、福祉センター横としたのは、結合し一体化させて普段使っていない部屋等を使用するという考えで、ある意味、機能の向上、そして経費が抑えられると考えています。さまざまなご心配も受け止めさせていただいて、不安がない形でスタートしなければならないと思っていますので、引き続きご意見等をいただきたいと思っています。

市立病院について、ポイントは2つあります。一つは、答申にあるように事業管理者を置くということで、市長の権限を委譲するということです。病院を完全に切り離して、予算面、人事面を事業管理者が行うということで、結論はこれから示していきますが、そのように考えていく可能性が高いと思っています。病床数に関しては100床ありますが、もう少し規模に合わせるべきではないかということで、東西間1床削減を視野に入れながら、それなりの減少について考えていかなければなりません。このことを踏まえまして、しっかりとした対応・方針を示していかなければならないと考えており、3月市議

会で令和 2 年度の市政執行方針を示さなければなりません。この中において、病院の今後のあり方についても示していきたいと思っています。

そして、答申や経営アドバイザーのアイデアなどをいただいて、全体として芦別市が市立病院を維持していくためには、市民の皆さんから支持をされ、支えていただかなければなりません。健康や命を守っていくのは行政の役目です。残念ながら藤島先生がお亡くなりになり、現在、開業医は橋本先生だけとなっています。平和診療所、中野記念病院等ありますが、病院によって対応が異なっています。高齢化が進んでこれからも上昇していく中、安全・安心な医療供給を行うことが、皆さんの安全・安心に繋がっていくと思っていますので、しっかりとした病院の供給体制を具体的に進めていきたいと考えています。

この4月から芦別の10か年のまちづくりの指針となる第6次総合計画がスタートいたします。ここには10年後の将来像、市民の皆さんに市民憲章として唱和いただいている「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げており、皆さんに力添えをいただきながら、この計画が一步でも前に進んでいけるようにと考えており、そのスタートとなる令和2年度の予算編成が大詰めとなっています。防犯カメラの話もいただきましたけれど、優先性を含めて相対的な要望等もありますので、市民の皆さんに納得いただけるような予算編成に努めていきたいと思っています。

昨日今日と雪が降り寒さも厳しくなっています。气象台によりますと、これが10日までは続き、11日からは気温が上がるということです。気温に高低差があるので、体調管理には十分ご注意くださいとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

5 閉会

以 上